



lab.3 DeathLAB: 死を民主化せよ

2018年7月7日(土)～
2019年3月24日(日)

〈lab〉シリーズ第3弾は、最先端の死の研究所「DeathLAB(デスラボ)」。
死を光に変換し、宗教や民族や家族を超える新たな追悼の形を問う

展覧会名	lab.3 DeathLAB: 死を民主化せよ
会期	2018年7月7日(土)～2019年3月24日(日)
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
休場日	毎週月曜日(ただし7月16日、8月13日、9月17日、9月24日、10月8日、10月29日、12月24日、1月14日、2月11日は開場)、7月17日(火)、9月18日(火)、9月25日(火)、10月9日(火)、12月25日(火)、12月29日(土)～1月1日(火)、1月15日(火)、2月12日(火)
会場	金沢21世紀美術館 デザインギャラリー
料金	無料
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
協賛	株式会社アイ・オー・データ機器、株式会社はせがわ
協力	コロンビア大学建築・都市・歴史保存大学院、DMM.make

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館
事業担当: 高橋洋介 広報担当: 石川聡子、落合博晃
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

都市における「死」をめぐるさまざまな問題—人口集中とそれに伴う深刻な墓地不足、少子高齢化、無宗教を支持する人の増加、火葬の二酸化炭素排出による環境負荷などを考えれば、これまででない葬送の方法を発明しなくてはならないことは当たり前の話かもしれません。

コロンビア大学の「デスラボ」は、このような課題に正面から向き合い、環境、時間、空間といった街の多種多様な制約に対応できる「死」の未来を、宗教学や建築学、地球環境工学、生物学などを横断して探求する最先端の「死の研究所」として世界的に注目されています。

この展覧会では、デスラボを主催するコロンビア大学准教授のカーラ・ロススタインとともに、「郊外へ疎外される『死』をいかに街に生きた形で取り戻すのか」「現代の都市文化に見合う『生と死の循環』とは何か」「個人が死者を追悼する空間でありながら、都市のインフラストラクチャーにもなるような公共空間はどのように実現できるのか」といった問いに対する革新的な可能性を建築模型や映像資料を通してご紹介します。



(Constellation Park) 2014
©LATENT Productions and Columbia GSAPP DeathLAB

DeathLAB
について

人の死を悲しみ、その人生に敬意を表す形は宗教や国によってさまざまですが、この展覧会で紹介する「デスラボ」は、火葬や自然葬や宇宙葬といった既存のものとは違う新しい死の形を提案する「死の研究所」です。カーラ・ロススタインという女性の建築家が代表となり、2013年にアメリカのコロンビア大学の建築・都市保存大学院に設立されました。2001年9月11日のワールド・トレード・センターの倒壊では、およそ3,000人もの犠牲者をどう吊うかが大きな議論となりましたが、そのような宗教や民族を超えた葬送の方法について、建築や宗教学、地球環境工学、生物学などを横断して学際的に研究しています。

展示作品
について

ニューヨークのマンハッタン橋に光の棺を吊り下げ、死の未来を提案する プロジェクト「星座の広場(コンスタレーションパーク)」を3Dプリントの建築模型で再現

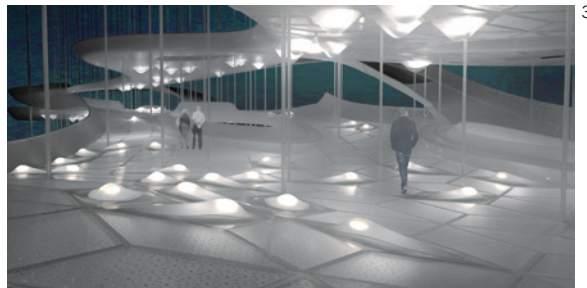
ニューヨークとブルックリンをつなぐマンハッタン橋の下に、数千もの発光する棺からなる広場をつくるプロジェクトは、棺の中に無数のバクテリアを住まわせ、遺体を1年かけてゆっくり分解し、そのメタン生成のエネルギーによって棺を星のように発光させます。棺の光は遺体の分解とともに徐々に弱まり、1年後に次の死者のために明け渡されます。



(Constellation Park) 2014 ©LATENT Productions and Columbia GSAPP DeathLAB

4Kの解像度で240インチの巨大スクリーンに映された「死の研究所」の全体像

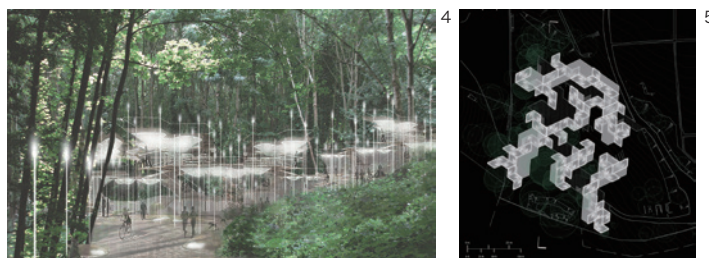
本展では、建築模型に加え、3章構成の映像をご覧いただけます。第1章ではデスラボの概要と使命を、第2章ではデザインとスタジオ作品を、第3章では哲学、宗教、建築、環境、歴史保存といったさまざまな専門家を中心とした「死をめぐる対話」をご紹介します。



(Constellation Park) 2014 ©LATENT Productions and Columbia GSAPP DeathLAB

未来へつながる「死の本質とは何か」をアメリカで活躍する哲学、宗教、 建築、環境、歴史保存の専門家たちが語るインタビュー映像を通して考える

映像の第3章は、「急速に発達する医学は死の文化をどう変えるか」「無宗教の人々の葬儀とはどうあるべきか」「インターネットやSNSによる死の共有の意味とは何か」といった現代の「死」についての問題へのデスラボの研究を映像で展示します。さまざまな専門家へのインタビュー映像を通して、アメリカの現代の死生観を知るとともに、いつかは訪れる私たち自身の死とその弔われ方を考える機会になるでしょう。



SYLVAN CONSTELLATION ©LATENT Productions and Columbia GSAPP DeathLAB

プロフィール

カーラ・マリア・ロススタイン

Karla Maria Rothstein

建築家／教育者。コロンビア大学建築・都市・歴史保存大学院准教授。レイテント・プロダクションズ共同設立者。コロンビア大学建築学部大学院で20年以上にわたり教鞭をとる傍ら、2013年にDeathLABを創設。聖域、追憶、死の都市空間を再考する学際的な研究で知られる。主な受賞歴に、2016年First Future Cemetery優勝(英国、ブリストル)。2014年AIANY Honor Award受賞。2013年コロンビア大学大統領教育賞ファイナリスト。NPR、WIRED.jp、OZY、Uncubeなどに多数論考を寄稿。主な論考に「死の光をつくる」(Columbia Magazine、2016)、「聖域、追憶、廃棄の都市空間を再構成せよ」『アメリカにおける死の新しい現実と論争』(2013) など。



6

広報用画像

画像1～6を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

画像お申し込みフォーム ▶ https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。